

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 平成27年度関東地方整備局関係予算の概要について

関東地方整備局

平成27年度国土交通省関係予算のうち、関東地方整備局関係の配分概要は本文資料(PDF)別紙のとおりです。

※当記者発表資料及び「主要事業の概要」は、関東地方整備局ホームページでご覧になれます。

【関東地方整備局の予算】 http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000678.html

※国土交通省(本省)の予算概要については、国土交通省ホームページをご覧ください。

【国土交通省の平成27年度予算】

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000832.html

● 別紙・参考資料

- [記者発表資料](#)  [331 KB]
- [別紙 平成27年度主要事業の概要\(一式\)](#)  [21487 KB]
- [0. 目次](#)  [154 KB]
- [1. 河川関係](#)  [13040 KB]
- [2. 道路関係](#)  [6300 KB]
- [3. 港湾関係](#)  [1565 KB]
- [4. 空港関係](#)  [785 KB]
- [5. 公園関係](#)  [680 KB]
- [6. 営繕関係](#)  [397 KB]
- [7. 社会資本整備総合交付金関係](#)  [782 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000678.html

2. 関東「道の駅」新たに5箇所登録へ ～関東地方整備局内では161箇所に～

関東地方整備局

地域の魅力あふれる5箇所が新たに仲間入り！
今回、関東地方整備局管内で以下の5箇所が登録されました。

- 栃木県日光市 道の駅「日光」
（国道119号）平成27年4月27日供用予定
- 群馬県佐波郡玉村町 道の駅「玉村宿」
（国道354号）平成27年5月31日供用予定
- 千葉県旭市 道の駅「季楽里あさひ」
（市道1級59号線）平成27年10月供用予定
- 千葉県安房郡鋸南町 道の駅「保田小学校」
（主要地方道鴨川保田線）平成27年12月供用予定
- 長野県下高井郡木島平村 道の駅「FARMUS 木島平」
（国道403号）平成27年5月1日供用予定

・今回の登録により、
関東地方整備局管内の「道の駅」は161箇所(全国1,059箇所)となります。

茨城:11 駅 栃木:23 駅 群馬:31 駅 埼玉:19 駅 千葉:26 駅
東京:1 駅 神奈川:2 駅 山梨:19 駅 長野:29 駅

「道の駅」の情報については関東「道の駅」ホームページでもご覧になれます。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/Michi-no-Eki/index.htm>

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_0000680.html

**3. 圏央道 久喜白岡 JCT～境古河 IC 間 <開通 1 週間後の速報> 新たに開通した
圏央道の交通量をお知らせします
～つながる。まわる。圏央道。～ 国際競争力と成長を支える道路**

北首都国道事務所

- 平成 27 年 3 月 29 日に開通した圏央道(久喜白岡 JCT～境古河 IC 間)の交通量※1 は、約 5,300 台/日※2 です。
- 先行して開通していた隣接区間の圏央道(白岡菖蒲 IC～久喜白岡 JCT 間)は、開通区間が伸びたことで 9,200 台/日となり、利用台数が 2,400 台/日増えています。
- 3 環状道路は、今年に入り、中央環状線品川線、圏央道(寒川北 IC～海老名 JCT 間)等が順次開通してきており、今後も、圏央道(神崎 IC～大栄 JCT 間)、(桶川北本 IC～白岡菖蒲 IC 間)等の開通が予定されています。
- 東北道や国道 16 号の交通量の変化は、まだ限定的ですが、今後、圏央道が利用されることで、渋滞緩和や地域経済の活性化等の効果が期待されます。

【圏央道久喜白岡 JCT～境古河 IC 間の開通後 1 週間の交通量】

日付	日別交通量(台)			備考	天候※3
	久喜白岡 JCT ～ 幸手 IC 間	幸手 IC～ 五霞 IC 間	五霞 IC～ 境古河 IC 間		
3 月 29 日(日)	4,300 台	4,100 台	3,300 台	15 時開通(9 時間交通量)	晴後曇
3 月 30 日(月)	5,600 台	4,600 台	3,100 台	24 時間交 通量	晴
3 月 31 日(火)	5,000 台	4,100 台	2,500 台		快晴
4 月 1 日(水)	4,900 台	3,900 台	2,300 台		曇一時雨
4 月 2 日(木)	5,500 台	4,400 台	2,500 台		晴
4 月 3 日(金)	5,300 台	4,200 台	2,200 台		曇
4 月 4 日(土)	5,900 台	4,800 台	2,800 台		雨後曇
4 月 5 日(日)	5,200 台	4,300 台	2,700 台		雨時々曇
4 月 6 日(月)	4,700 台	3,700 台	1,900 台	晴後曇	

※1 平成 27 年 3 月 30 日(月)～4 月 5 日(日)の日交通量の平均値

※2 久喜白岡 JCT～幸手 IC 間

※3 天候は熊谷市の昼の天気概況を記載(気象庁ホームページより)

◇開通による主な効果◇

圏央道の整備により、東北道や常磐道などの放射方向の高速道路を結ぶ道路ネットワークが形成されます。広域的な人・物の交流により民需が拡大し、地域経済の好循環が生まれます。

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kitasyuto_00000109.html

4. 道の駅めぬまと立正大学との連携

大宮国道事務所

～道の駅めぬまと立正大学との連携～

地域における新たな価値の創造を連携企画します。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、立正大学と道の駅めぬま及び大宮国道事務所 3 者で連携企画型の実習を実施することとなりましたのでお知らせします。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いのニーズを確保し、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。(詳細は、本文資料(PDF)参照)

【実施内容】

■道の駅めぬまと国宝「妻沼聖天山(歓喜院聖天堂)」の連携促進

- ・学生による観光情報発信
- ・新たな観光資源マップの作成

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/oomiya_00000186.html

5. 鬼怒川の景勝、瀬戸合峡の遊歩道のオープン

鬼怒川ダム統合管理事務所

鬼怒川の最上流に近い瀬戸合峡は、真夏でも冷涼な気候と、秋の見事な紅葉から、毎年多くの観光客が訪れ、瀬戸合峡、川俣ダム及びダム湖は、日光市が認定する「日光ブランド」にもなっています。

この瀬戸合峡では、冬期閉鎖していた川俣ダム下流の遊歩道を4月24日(金)9時よりオープンします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kinudamu_00000035.html

6. 圏央道神崎IC～大栄JCT間が6月7日に開通します

～つながる。まわる。圏央道。～国際競争力と成長を支える道路

常総国道事務所

平成27年度にかけて、次々とつながる、圏央道。常磐道と東関東道がつながります。

◇開通による主な効果◇

圏央道の整備により、常磐道や東関東道などの放射方向の高速道路を結ぶ道路ネットワークが形成されます。広域的な人・物の交流により民需が拡大し、地域経済の好循環が生まれます。

効果(1) 国際競争力と成長～民需の拡大～

●環状道路の整備により、沿線に物流施設や工場が立地する等、民間の投資を喚起します。

●環状道路の整備に伴い、物流の効率化を目的とした既存施設の集約により、工場などが新たに立地されています。

効果(2) 地域経済の好循環～新たな広域ネットワークの形成～

●都心を経由せず、埼玉や北関東・東北方面と成田国際空港を結ぶ新たな広域ルートが形成され、人・物の交流が活発となり、地域経済の好循環が期待されます。

●今回その第一歩として、圏央道(神崎IC～大栄JCT間)の開通により、常磐道と東関東道がつながります。

※開通時刻、開通式典の概要については、後日お知らせいたします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/jousou_00000046.html

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 土砂災害防止法に基づく基礎調査の実施目標について

各都道府県において基礎調査完了予定年を検討した結果、全ての都道府県で、今後5年以内(平成31年度末まで)に、基礎調査を完了させる目標が設定されました。

なお、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域は、基礎調査の完了時(平成31年度末)には約65万区域になると推計されます。

- 昨年8月の広島市の土砂災害を受けて、都道府県による基礎調査の一層の促進等を図り、土砂災害から国民の生命等をまもるための改正土砂災害防止法が本年1月18日に施行されました。
- また、改正土砂災害防止法に基づき定められた土砂災害防止対策基本指針では、各都道府県は、おおむね5年程度で基礎調査を完了させることを目標とし、完了予定年も含めた実施目標を速やかに設定することとしたところです。
- このたび、各都道府県における基礎調査の完了予定年等の実施目標がとりまとめられました。
- 国土交通省としては、今回設定された完了目標が達成できるよう、引き続き都道府県に対する支援を実施してまいります。

添付資料

[報道発表](#) (PDF形式) 

[基礎調査の完了予定年度](#) (PDF形式) 

[基礎調査\(土砂災害警戒区域\)の完了予定年度](#) (PDF形式) 

[基礎調査の実施目標及び進捗状況](#) (PDF形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sabo01_hh_000015.html

2. 「道の駅」の第43回登録について ～今回19駅が登録され、1,059駅となります～

「道の駅」は、平成5年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っています。

今回、市町村から19駅の申請があり、4月15日に登録を行いました。

今回の登録により、全国の「道の駅」は、1,059駅となります。

また、登録された「道の駅」の中には、重点「道の駅」が2駅、重点「道の駅」候補が1駅含まれています。

添付資料

[記者発表資料](#) (PDF形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000500.html

3. 「土砂災害警戒避難ガイドライン」の改訂について

土砂災害防止法の改正を踏まえ「土砂災害警戒避難ガイドライン」(平成19年4月)の改訂を行いましたのでお知らせします。

○平成26年8月に広島市で発生した土砂災害等で死者74名の甚大な被害が発生したこと等を受けて、土砂災害防止法が改正され、平成27年1月18日に施行されました。

○今般、土砂災害防止法の改正を踏まえ、警戒避難体制を充実・強化するため、「土砂災害警戒避難ガイドライン」を改訂しました。


○土砂災害に対する警戒避難の体制づくりの手引き書として、都道府県、市町村等の防災担当者をはじめ、住民の方々にも幅広く活用していただきたいと思います。

<改訂の主なポイント>

- ・土砂災害の危険性等の継続的な周知
- ・防災情報の住民等への確実な伝達
- ・避難勧告等の発令・解除における国・都道府県からの支援
- ・避難勧告時に求められる住民の避難行動

添付資料

[報道発表資料](#) (PDF形式: 137KB) 

[改訂概要](#) (PDF形式: 204KB) 

[土砂災害警戒避難ガイドライン\(平成27年4月\)](#) (PDF形式: 9,454KB) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sabo01_hh_000016.html

◆◆地域の動き◆◆

圏央道「寒川北 IC～海老名 JCT」、「久喜白岡 IC～境古河 IC」が開通
～つながる。まわる。圏央道～
国際競争力と成長を支える道路

道路部 計画調整課

1. 圏央道及び開通区間の概要

圏央道（首都圏中央連絡自動車道）は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の高規格幹線道路です。



図1 圏央道全体位置図

寒川北 IC～海老名 JCT 間（延長約4.3 km）が平成27年3月8日に開通し、神奈川県南北の大動脈「さがみ縦貫道路」が全線開通となりました。

また、久喜白岡 JCT～境古河 IC 間（延長約19.6 km）が3月29日に開通し、埼玉県と茨城県が圏央道でつながりました。

引き続き、神崎 IC～大栄 JCT 間（延長約9.7 km）が、6月7日開通予定であり、また、桶川北本 IC～白岡菖蒲 IC 間及び境古河 IC～つくば中央 IC 間について、今年度開通を目指して整備を進めています。

2. 開通後の交通状況

寒川北 IC～海老名 JCT 間の開通後1ヶ月間の日平均交通量は約17,300台で、開通済みの隣接区間（寒川南 IC～寒川北 IC）の交通量が、前年同時期に比べ5倍の約15,000台と大幅に増加しました。一方、並行する一般道路の交通が圏央道へ転換したと見られ、交通量が約12～15%減少し、地域の交通状況が改善しました。

久喜白岡 JCT～境古河 IC 間の開通後1週間の日平均交通量は、約2,600～5,300台※で、開通済みの隣接区間（白岡菖蒲 IC～久喜白岡 JCT）の日平均交通量も6,800台から9,200台へ、約1.4倍に増えました。一方、並行する県道の交通が圏央道へ転換したと見られ交通量が約6%減少し地域の交通状況が改善しています。

※ 各 IC 間の平均交通量

3. 整備効果

今回の開通区間を含め、圏央道沿線では、開通前から企業立地が進むなど民間投資が拡大しています。

久喜白岡 IC～境古河 IC 間でつながる茨城、埼玉両県は、平成26年工場立地面積がそれぞれ全国第1位、全国第3位となっており、五霞 IC・幸手 IC 周辺においても、商業、工業、物流等の複合施設を含んだ大規模開発計画が進行するなど、民需の拡大、地域経済の好循環が期待されます。

また、寒川北 IC～海老名 JCT 間の開通で湘南エリアと北関東方面との移動性が向上したことにより、新規バスツアーの開設やリゾート施設で開通記念キャンペーンの実施など、新たな観光需要の拡がりが見られ、開通による効果が徐々に現れ始めています。

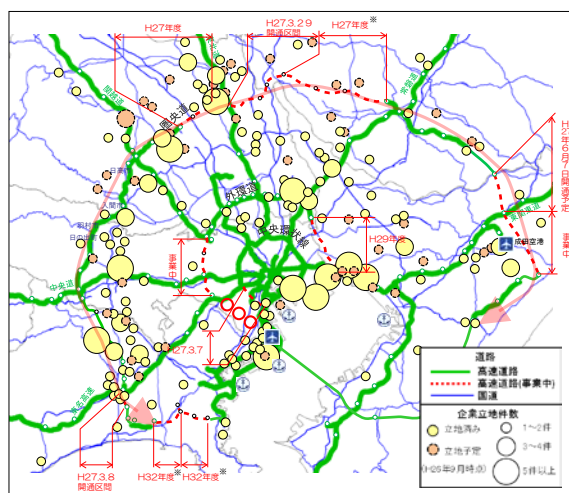


図2 圏央道沿線の企業立地情報

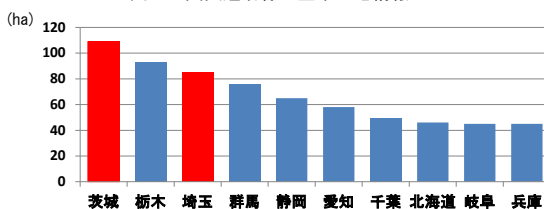


図3 工場立地面積 (H26/上位10都道府県)

出典) 工場立地動向調査 (経済産業省) より作成



図4 湘南から秩父方面バスツアールート

※区間の開通時期については、土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合